第5期
京都市未来まちづくり
100人委員会

成果報告書

（平成26年4月～平成28年3月）

もくじ

１．　はじめに　……3
・京都市未来まちづくり 100 人委員会について
・第 5 期の重点テーマ
・成果目標

２．　第５期の歩みについて　～実施内容～……5

３．　各プロジェクト活動報告……１１

・あきや活用まちづくりセンター
・おおきにプロジェクト
・おじゃまします［映像・検証］プロジェクト
・キモノスタート
・国際チーム
・出張人（しゅっちょうひと）つなぎカフェ
・世界中の人に鴨川を愛してもらおうプロジェクト（鴨川 0907）
・世界無形文化遺産和食で腸美人
・地域もりあげプロジェクト
・ちょいノリ京都～コミュニティサイクル～
・伝統産業 Respect プロジェクト
・プランターから始める京都菜縁生活
・京楽（みやこらく）ラクプロジェクト
・マイナーとはプレミアムであるプロジェクト
・ワカモノつながりプロジェクト

４．　第５期の成果について……３８

補足資料　……４４
・委員による100人委員会総括まとめ
・委員へのアンケート集計結果
・２０１４．１２．２０　プロジェクト構想発表会
・２０１５．８．２９　　まちづくりミートアップミーティング
・２０１６．１．１６　　プロジェクト成果発表会
・２０１６．３．１９　NEXTフォーラム

1. はじめに

京都市未来まちづくり 100 人委員会とは？

京都の未来を築くため，幅広い分野の市民が参加し，市民主体のまちづくりを推進することを目的に平成 20 年 9 月に創設された委員会です。

これまで，京都のまちづくりについて，市民自ら取り組むテーマを設定し，多様な観点から議論し，その結果を提言するとともに自ら発信・実践を行ってきました。

これまでの第1期から第5期において約500名の市民が100人委員会の活動に取り組みました。

第５期の特徴

第 5 期では，18 歳から 81 歳まで 117 人の市民が集い，下記 4 つの重点テーマと成果目標の達成を目指し，未来の京都を見据え，多様な観点からまちづくりについて議論しその結果を自らの実践を通じて社会に向けて発信する「未来志向型」の委員会として活動してきました。

【4 つの重点テーマ】

（1）「2035 年の京都」，20 年後の社会を見据えた未来志向型委員会として運営します
（2）100 人委員会を「ミニ・パブリックス（社会の縮図）」と位置づけ，
　　「市民全体の課題」に取組みます
（3）課題解決に向けた実践とその実践を本物にするための支援を重視します
（4）市民と行政の新しい公共のプラットフォームを構築します

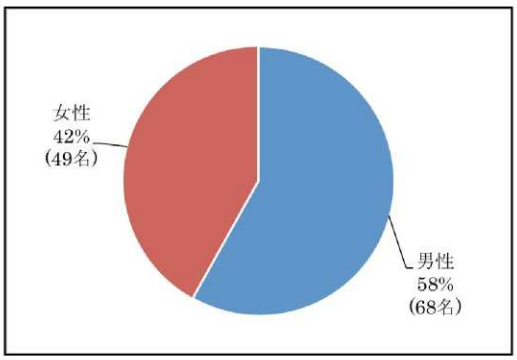
【成果目標】

- 第 5 期の議論と実践を，市民が創る「2035 年に向けた総合計画」として活動報告書として取りまとめ，市へ提言します
- 100 人委員会を通じて生まれた活動や関わりのできた人材については，各地域・NPO・行政機関・地元事業者とも連携を強化し，京都における地域の公共人材として，修了後も活動継続できる仕組みを創出（全体参加者の 60%，プロジェクト数の 50%目標）
- 行政が行っている既存委員会・審議会・市民参画・協働政策の進化・深化につなげ，100 人委員会の次の展開を拓くために，5 期までの総括と次のビジョン策定を行います。

第５期１００人委員会の参加委員について

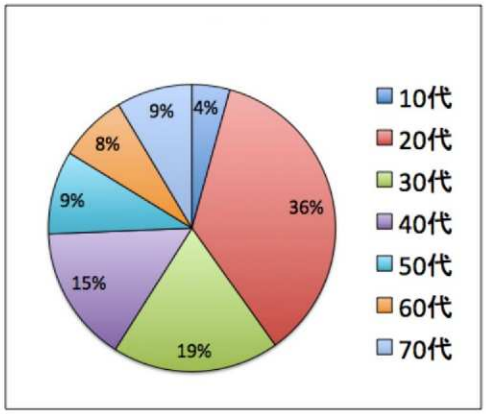
第 5 期では，10 代～70 代まで総勢 117 名が委員として参画し，20 代～30 代が全体の 36%（42 名）を占め，これまで仕事や子育て等が理由でなかなか参加が得られなかった年代が多く見られました。また職業別では企業関係者が 35%（41 名）と多いことが特徴として挙げられ，市民活動やまちづくり活動などの未経験者が比較的多かったことも特徴の 1 つと言えます。

男女比



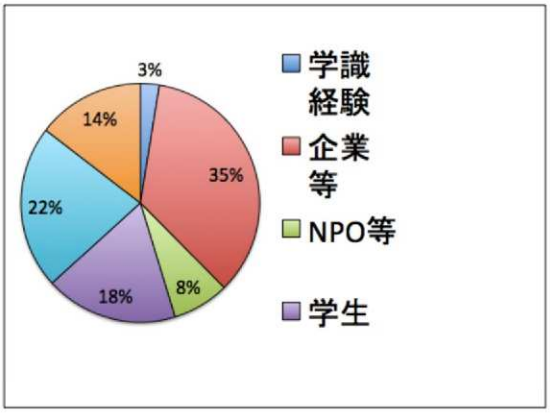
	男性	女性	合計
一般公募	21	21	42
区推薦	6	7	13
NPO 推薦	27	11	38
市職員	14	10	24
全体	68	49	117

年齢層

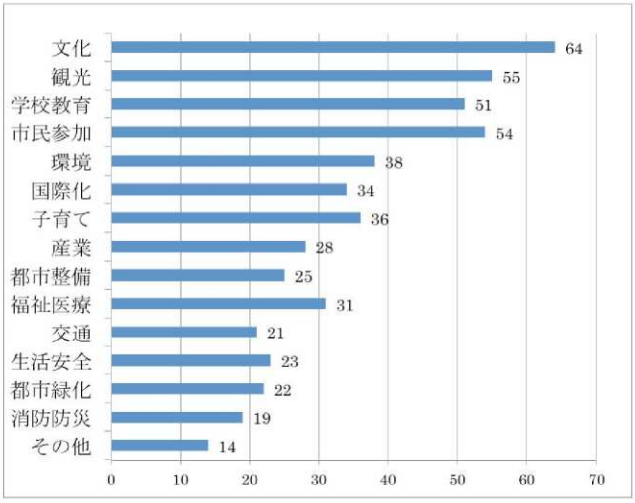


	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代～
一般公募	0	6	8	11	6	5	6
区推薦	0	3	2	1	1	3	3
NPO 推薦	5	16	6	5	4	1	1
市職員	0	17	6	1	0	0	0
全体	5	42	22	18	11	9	10

職業別

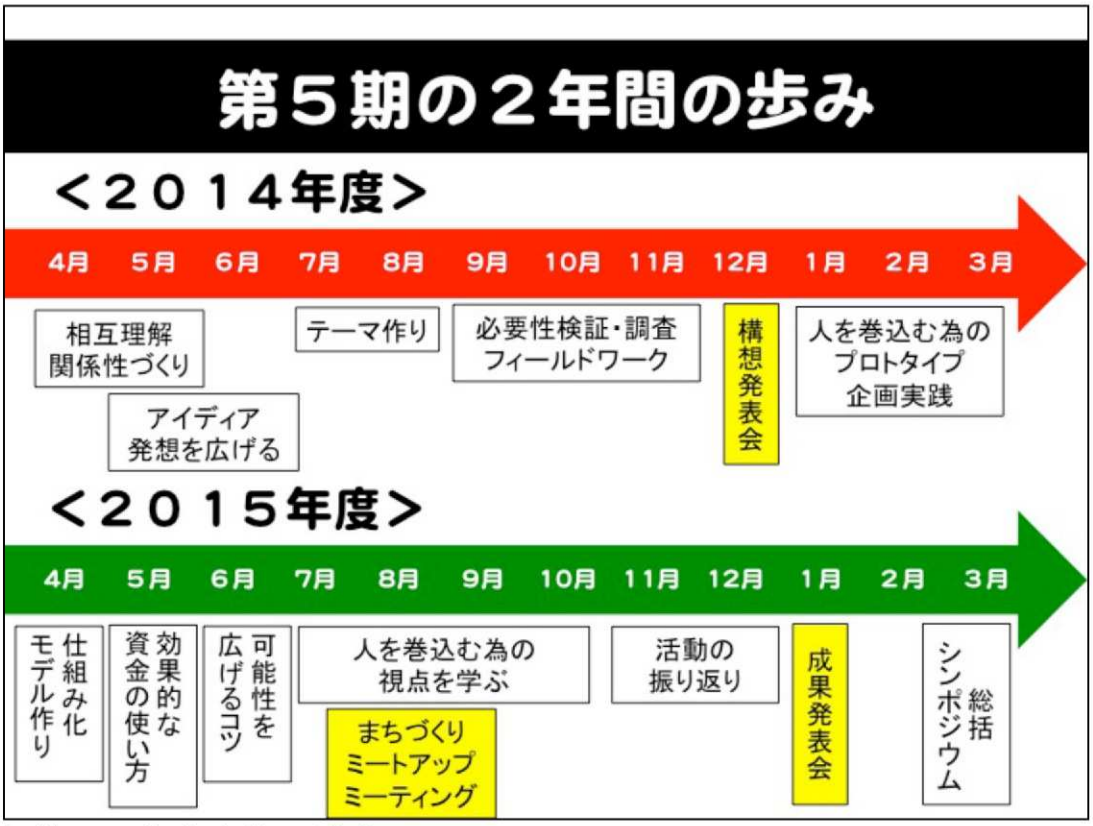


興味・関心



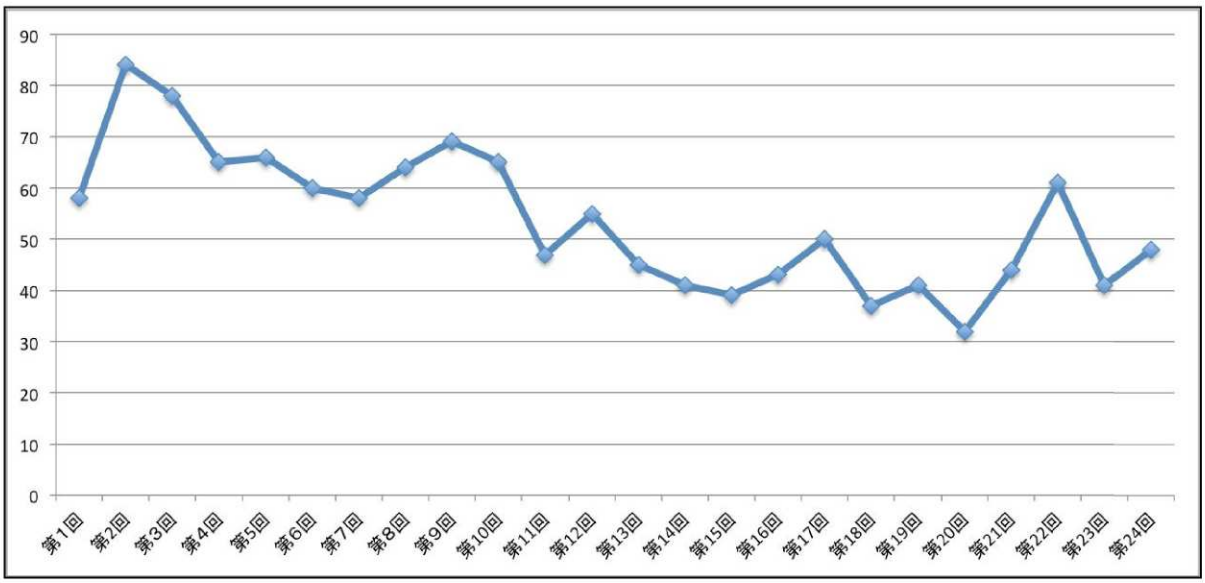
2. 第5期のあゆみについて～実施内容～

100 人委員会では，各プロジェクトの活動以外に，委員が集い，お互いの進捗や情報を共有し，学び合うことができる場として毎月定例会議を設けました。
第５期では，下記のように定例会議を行いました。



■定例会議への出席人数の推移

毎月の未来会議への出席人数は，全体的にゆるやかに減っていますが，特別なイベントを企画し広報も積極的に行った第 17 回（2015/8）まちづくり MeetUp ミーティングや第 22 回（2016/1）成果発表会のときは一般参加者の参加率と共に委員の出席率も高くなりました。



定例会議の詳細

■相互理解・関係性づくり・アイディア・発想を広げる（2014年4月～6月）

第5期の概要説明と，委員同士の交流を通じた相互理解と関係性構築を目的に，オリエンテーションを実施しました。
まずは委員がお互いのことを知り合う事から始めました。また第1期～第4期のOB・OGの協力のもとに，これまでの100人委員会の活動の様子や実績等をお伝えし，これからの活動についてイメージを膨らませる時間をつくりました。

また，100人委員会には多様な方々が集っており，一人では出来ないことも，力を合わせれば実現できる可能性がある事を実感してもらえる様，アイディア出しのワークショップを開催しました。

100人委員会の持つ力を体感する会として実施し，委員ひとりひとりのスキルや知識・経験を見つめ直し，参加者同士，お互いを知り合い，アイディアの発想を広げていきました。

＜アイデア出しワークショップの様子＞

＜委員同士の交流の様子＞

＜アイデア出しワークショップの様子＞

	概要	参加委員	傍聴数
第1回 (4/26)	第5期の概要説明と委員同士の交流を目的に，対話促進ツール「カタルタ」を使用しながら，お互いどのような事に関心があるのか，お互いを知り合うワークを実施。 ＜ゲスト＞ 100人委員会OB・OG（篠原幸子さん，藤崎壮滋さん，田中貴子さん，岡野雅道さん，立元圭さん）	58名	11名
第2回 (5/24)	第4期委員の伊豆田さんをゲストに，チームの力を体感するアイディア出しワークショップ「アイディア出し１００本ノック」と，模擬チームづくりワークショップを開催。 ＜ゲスト＞ 伊豆田千加さん（子育ては親育てみのりのもり劇場）	84名	5名

■テーマづくり（7月～8月）

未来志向型の委員会を目指して，委員それぞれが未来の京都を思い描き，取り組んでみたいプロジェクトテーマを提案しました。そして各プロジェクトテーマに興味関心のある委員が集い，実現に向けたプランを考えていきました。

＜委員それぞれが考えたテーマの発表の様子＞

	概要	参加委員	傍聴数
第４回 (7/26)	委員の中から取組んでみたいテーマを出してもらう為に，「プロアクションカフェ」を導入し，委員が今取組みたいテーマと活動を出してもらい，プロジェクトづくりを実施。	65 名	2 名
第５回 (8/23)	プロジェクトの仮説検証を行う為に，「リーンキャンバスシート」を活用し，プロジェクトが達成したい未来や，ターゲットが抱える課題などを抽出。 ＜ゲスト＞ 内藤郁子さん（NPO 法人景観フォーラム）	66 名	6 名

■必要性検証・調査・フィールドワーク（9 月～11 月）

各委員が考えたプロジェクトテーマをより多くの市民の共感を得られるものにしていくために，調査手法について学び，利害関係者等の洗い出しを行い，実際に実地調査やデータ収集を行い検証していきました。

	概要	参加委員	傍聴数
第６回 (9/27)	検証した仮説の立証に向けて，ゲストをお招きし，調査手法についてのレクチャーを受け，プロジェクトのステークホルダーを考えていくステークホルダーマッピングに挑戦しました。 ＜ゲスト＞ 水谷依里さん（三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社）	60 名	4 名
第７回 (10/25)	12 月の構想発表会を目指し，共感を生むためのプレゼンテーションづくりと，視覚的に訴えかけるためにインフォグラフィックスに挑戦しました。	58 名	5 名
第８回 (11/22)	来月の構想発表会を見据え，12 月に控えた構想発表会と同じ形式でプレゼンテーションの予行演習を実施しました。	64 名	10 名

■プロジェクト構想発表会（12 月）

委員同士の話し合いから生まれてきたプロジェクトの事業構想案を，より多くの市民に周知すると共に，各事業構想案について市民と意見交換を行うことを目的に実施しました。

＜発表の様子＞

＜発表後の来場者との交流＞

＜会場の様子＞

	概要	参加委員	傍聴数
第９回 (12/20)	みやこめっせにて，構想発表会を実施し，約 300 名の来場者の前で，各プロジェクト７分ずつプレゼンテーションを行い，各ブースに分かれて個別セッションを行いました。 ＜ゲスト＞ 野村恭彦さん（株式会社フューチャーセッションズ） 平井誠一さん（株式会社西利） 高橋マキさん（NPO 法人カラスマ大学）	69 名	約 300 名

■プロトタイプ企画実践（2015年1月～3月）

12月のプロジェクト構想発表会に参加した市民の声を反映させ，事業企画をブラッシュアップさせました。それを基に次のステップへと進めるために，試験的に実践行動を行い，そこから何が見えてきたのか，振り返りを行ったうえで，次年度の本格的な実践行動に向けた準備をしました。

	概要	参加委員	傍聴数
第10回 (1/24)	ゲストにイベント管理サービスを展開しているOrinoco　Peatixの白勢竜彦さんをお招きし，イベントづくりのポイントについてお話いただいた。それを踏まえて，１～３月にかけて行う企画づくりをプロジェクト毎に計画。 ＜ゲスト＞ 白勢竜彦さん（Orinoco Peatix株式会社）	65名	20名
第11回 (2/21)	イベント企画を進めるにあたって，円滑にミーティングを進められるよう，「良い会議とは何か」についてワークショップを通じて考えていただき，その後プロジェクト毎に企画のブラッシュアップを実施。	47名	8名
第12回 (3/21)	残り１年間の目標設定を行う為に，ゲストに認定NPO法人テラ・ルネッサンスより栗田佳典さんにお越しいただき，目的や目標の設定の仕方について学んだ後，プロジェクト毎に１年間の目的と目標について話し合いを実施。 ＜ゲスト＞ 栗田　佳典さん（認定NPO法人テラ・ルネッサンス）	55名	7名

■仕組み化・資金の使い方・可能性を広げるコツ（4月～6月）

本格的な実践行動の中で，それぞれのプロジェクトの活動の幅を広げるために必要となってくる仕組み化・効果的な資金の使い方など，可能性を広げるコツについて学び，取り入れていきました。

＜川北さんによる講演の様子＞

＜応援金についての説明＞

＜太田さんによる講演の様子＞

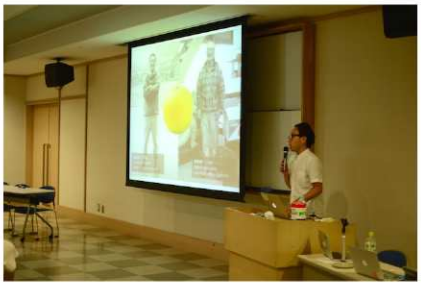
	概要	参加委員	傍聴数
第13回 (4/18)	プロジェクトを広めるために大事なモデル化・仕組みづくりをテーマに加え，本気で社会を変えるための取組へ向かうための気構えについての講演。 ＜ゲスト＞ 川北　秀人さん（IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]）	43名	13名
第14回 (5/23)	今年度の応援金について説明し，各プロジェクトで共感を得るための視点がどれだけあるかを確認するワークショップを開催。	41名	10名
第15回 (6/20)	どのように多様な人々の共感を集め，お互いの力を出し合いながら連携を生み出していったのか，まずは自らが行動を起こす事の大切さを，事例を交えての講演。 ＜ゲスト＞ 太田　航平さん（NPO法人地域環境デザイン研究所 ecotone）	39名	12名

■人を巻込むための視点を学ぶ（7 月～10 月）

より多くの一般市民の共感を得てともに行動をおこしていくために，7 月～10 月の 4 ヶ月間をかけて，「人を巻込む視点」について学びました。8 月 29 日開催した「まちづくりミートアップミーティング」では実際に学びを実践し，新たなメンバーの獲得に励みました。

＜まちづくりミートアップミーティング＞

＜第 18 回未来会議の様子＞



＜第 19 回未来会議の様子＞

	概要	参加委員	傍聴数
第 16 回 (7/25)	「参加者を巻込む雰囲気をつくるコツ」をテーマに，「まわしよみ新聞」の陸奥賢さんと「京都府のギフト」の近藤貴馬さんよりトークセッションを実施。 ＜ゲスト＞ 陸奥　賢さん（まわしよみ新聞） 近藤　貴馬さん（京都府のギフト）	43 名	13 名
第 17 回 (8/29)	前回で学んだ「参加者を巻込む雰囲気をつくるコツ」を基に，まちづくりミートアップミーティングという形で，より多くの方々を活動へ巻込む機会を創出。＜ゲスト＞ 兼松　佳宏さん（greenz. jp 編集長） 京都市まちづくりアドバイザー （朝倉眞一さん，天岡昌代さん，加藤ゆうこさん，佐藤友一さん，白水育世さん，谷亮治さん，深川光耀さん）	50 名	135 名
第 18 回 (9/26)	「積極的な参加者を増やすプログラムづくり」をテーマに，ゲストとして「TSUKURUBA」の中村真広さん，「RAD」の榊原充大さんをお招きし，トークセッションを実施。 ＜ゲスト＞ 中村　真広さん（株式会社 TSUKURUBA 代表取締役 CCO） 榊原　充大さん（RAD　編集／リサーチ）	37 名	21 名
第 19 回 (10/24)	「楽しむコツ」をテーマに，得意な事を活かして楽しんで活動するチームづくりについて「株式会社シーズクリエイト・京都市ソーシャルイノベーション研究所」の前田展広さんをゲストに講演。 ＜ゲスト＞ 前田展広さん （株式会社シーズクリエイト・京都市ソーシャルイノベーション研究所）	41 名	20 名

■活動の振り返り（11 月～12 月）

約 1 年間の実践行動を振り返り，2016 年 1 月 16 日開催予定のプロジェクト成果発表会に向けた準備を行いました。

	概要	参加委員	傍聴数
第 20 回 (11/28)	1 月の成果発表会に向けて，プロジェクト毎に発表づくりを実施。	32 名	30 名
第 21 回 (12/19)	委員同士で発表し合い，ブラッシュアップしあう機会として，プレ発表会を実施。 ＜協力者＞ 田中貴子さん（第 4 期 OG），吉永初美さん（第 4 期 OG），中島聡さん（NPO 法人はたらぼ），北井弘さん（アドバイザー委員），浅井春光さん（フリーランス），肥後祐亮さん（グローカル人材開発センター）	44 名	25 名

■プロジェクト成果発表会（2016 年 1 月）

約 1 年間の実践行動でそれぞれのプロジェクトが導きだした成果について，広く市民に向けて発表する機会として実施しました。

＜成果発表会当日の写真＞

	概要	参加委員	傍聴数
第 22 回 (1/16)	それぞれのプロジェクトが実施してきた活動の成果を，広く市民に向けて発表するプロジェクト成果発表会を実施。	61 名	304 名

■2 年間の総括（2 月～3 月）

2 年間の活動を個人として，またプロジェクトとして振り返り，次の展開について考える機会としました。2 月は委員同士で振り返り，3 月は第 1 期～4 期までの OB・OG や 100 人委員会に関心のある市民を招き，共に 100 人委員会全体を振り返り，次の展開について考えていきました。

＜それぞれの委員からの総括の様子＞

	概要	参加委員	傍聴数
第 23 回 (2/20)	第 5 期の活動を通じて，何を得て，何が課題として気づき，次にどうつなげていきたいのかなど，委員同士で第 5 期の振り返りを実施。	41 名	3 名
第 24 回 (3/19)	100 人委員会が果たしてきた役割や成果について，第 1 期～第 5 期までの委員と一般来場者を交えて深め合い，またそこから見えてきた次の展開について話し合う「京都で生まれた 100 人委員会・NEXT フォーラム」を実施。 ＜協力者＞ 野村恭彦さん （株式会社フューチャーセッションズ代表取締役社長） 片桐直哉さん （第 1 期～3 期運営事務局） 佐藤友一さん（第 1 期～3 期委員） 藤崎壮滋さん（第 2 期～3 期委員） 井関崇博さん（第 4 期～5 期運営アドバイザー） 村井直也さん（第 4 期委員）	53 名	41 名

3. 各プロジェクト活動報告

第５期では，合計 15 のプロジェクトが生まれ，実践行動を起こしました。各プロジェクトの活動内容は，以下の通りです。

01 PROJECT あきや活用まちづくりセンター

MISSION

空き家の活用により，地域の防災・防犯性の向上，地域の景観，コミュニティの活性化につながる活動を目指します。

MEMBER

赤崎　盛久，北川　美里　，小井　香欧里，北庄司　智美，西村　睦，森川　哲巳，赤崎　盛幸
新妻　人平，吉村　光則，阿部　夏希

ACTIVITY ①

①あきや見学ツアー・ワークショップ

空き家活用に興味関心を持ってもらう事を目的に，実際に空き家の現状を見て回るツアーを開催し，ツアー後空き家の活用について考えるワークショップを開催。
【日時】2015/2/28（土）【場所】東山区内の空き家 【参加者】19 名
【成果】
空き家に関心のある方だけでなく，実際の地域の空き家所有者にも着てもらった事で，実際的な悩みを聞く事ができ，具体的な活用方法を話し合う事ができました。

ACTIVITY ②

②「京都市のまちなみ景観と建築規制緩和の政策について」セミナー

景観を残すため，京都市で行っている建築制限の緩和に関するセミナーを開催。
【日時】2015/3/24（火）【場所】市民大学院 【参加者】30 名
【成果】
参加者より，「京都市の制度とうまく連動し，防災の観点からも地域と連携して問題解決に向けたプロセスをつくることが大切だと理解できた」という声が聞かれたように， 参加者が専門的知識のある方も多かったため，質疑応答では活発な意見交換がなされる活気あるセミナーとなりました。

ACTIVITY ③

③チーム京都・移住応援チーム「観光する京都から住む京都に」

空き家情報を発信し，京都への移住を考えている方と，空き家を持つ方や地域の方とのマッチングを行い，京都移住を促進することを目的に，潜在的な京都への移住希望者を発掘し，京都に呼び込むことで東京一極集中という現在の状況が変化するきっかけとなる移住セミナーと相談会を実施しました。。
【日時】2016/3/5（土） 13:00～16:30 【場所】東京・移住交流ガーデン
【参加者】63 名（個別相談者 14 組）
【成果】
首都圏（東京）での京都の空き家活用事例を紹介し，実際に京都に移住したい，活用したいという方々合計 14 組の個別相談に対応しました。

ACTIVITY ④

④京都市の「地域連携型空き家流通促進事業」の普及とサポート

各学区には専門的知識を持つ方が少ないため，専門的なサポートを行い，地域が空き家活用を促進させることを目的に，京都市の施策である「地域連携型空き家流通促進事業」の存在を PR する活動を実施しました。
【日時】2015/4～2016/3 【場所】梅屋学区・有済学区・朱雀第３学区 【参加者】毎回 10～20 名程度
【成果】
2015/4～2016/3 まで，各学区にて空き家活用の実例の紹介を行うセミナーや，まちあるき・ワークショップ等を行い，それぞれの地域の魅力を掲載した冊子の作成（梅屋学区）や HP の制作（有済学区）を行いました。
ワークショップやまちあるきで毎回 10～20 名程度の参加があり，梅屋学区の作成冊子 1500 部は住民と他地域の方々やイベント参加者等に配布しました。各地域の方々にお話を伺ううちに，住民の方自身が地域それぞれの魅力等の再発見し，自治活動に取り組むきっかけとなる有意義な活動となりました。

ACTIVITY ⑤	**⑤京都での空き家セミナー・相談会** 空き家所有者の方に，空き家活用の実例を見ていただくことでイメージを持ってもらうと共に，地域全体で空き家活用を考えていくべきということを再認識するために実施しました。 【日時】2016/2/13　13:00～17:00 【場所】梅屋自治会館 【参加者】60 名以上 【成果】 空き家セミナーと相談会を開催し，弁護士による法律相談の話や空き家活用についての話を行いました。また梅屋学区で空き家活用の 1 例目となった方もお招きし，学区全体で歓迎のセレモニーを同時に行いました。セミナー後の相談会では，活用に前向きになられた空き家所有者の方が，当初の予定より多く活用の相談に来られました。セミナーには 60 名をこえる多くの方々が参加し，興味を持って聞いてもらえた。今後は，相談を持ちかけてこられた方々がお持ちの物件がある地域に出向き，所有者や地域の方々と共に活用について考えていきます。
REFLECTION	あきや活用まちづくりセンターの活動を通じて，地域の方々に，改めて自分たちの住む地域の魅力の再発見をしていただき，まちの将来の姿について共に考えてきました。そのことにより，自分の住んでいる地域や空き家の活用について，地域ぐるみで考える機運が高まったと感じています。 空き家所有者の方にも，空き家のある地域がどのような地域なのかを知ってもらい，空き家を活用する際に生じる障害や原因については弁護士等の専門家への相談もできること，またどのような活用方法があるかということがわかり，空き家活用に対する精神的ハードルが下げることができたと考えます。 また東京での移住セミナー・相談会では京都の空き家を活用して移住することで，まちづくりも同時にできるということが伝わったと感じています。 一方でまだまだ一部の地域で活動のサポートをしている状態であり，他の様々な地域でもサポートしていきたいと考えています。

TOTAL PROJECT COST（総事業費）	630,475 円
100 人委員会からの応援金総額	228,423 円

02 PROJECT おおきにプロジェクト

MISSION

市民ひとりひとりが観光客に京都に来てくれてありがとうという感謝の気持ちをもち，観光の手助けをする事でおもてなしができる京都を目指します。

MEMBER

上田　勇，櫻井　勉，鈴木　伸也，大野　丈，磯村　昌則，小林　佑哉

ACTIVITY ①

①モテる道案内

観光客がどのような場所で道に迷っているのか，道案内を通して京都観光の長所・短所を発見し，市民ができる観光客へのおもてなしを考える事を目的に下記の企画を実施。
【日時】2015/3/22（日）　12:00～15:00 【場所】JR 京都駅集合 【参加者】8 組の観光客
【成果】
　実施してみて分かった事は，例えば京阪から地下鉄への乗り換えがわからないなど，比較的軽微な内容で道に迷っている人が多かったことです。また，京都駅から離れ，田の字地区に行くと，駅と比べて地図を開いて迷っている人の数は少なく、駅前にニーズが集中していることが改めて知る事ができました。

ACTIVITY ②

②サイコロ de 京都観光

行き先をサイコロで決めるという一風変わったガイドを体験してもらう事を通して，京都観光の長所や短所を見いだすことを目的に実施しました。
【日時】2015/3/28（土）　10:00～15:00 【場所】JR 京都駅集合 【参加者】2 名
【成果】
　結果的に，天候や予想以上の混雑具合により，当初のプランのサイコロを活用した観光ではなく，参加者が行きたい所をあげていき，市バスを使わず地下鉄のみで実施する形に変更しましたが，実施してみて改めて「交通渋滞を避けた観光プランの提案」という，プロジェクトの方向性の一つが見えたプログラムとなりました。

ACTIVITY ③

③各種まちあるき企画

京都観光に興味を持っている京都市民をコア層として獲得することを目的に，「OTOTABI」や「大人の修学旅行」といったテーマごとにまちあるき企画を実施。
【日時・場所】
テーマごとのまちあるき企画（2015/4/29（水）東山清水，2015/7/12（日）東山祇園，2015/9/12（土）上賀茂）
■Ototabi（2015/9/27（日）一乗寺，2015/11/19 西陣）
■大人の修学旅行（2016/2/6（土）金閣，西陣，北野天満宮）
【参加者】延べ約 30 名
【成果】
観光客と京都市民が両方参加していただき，少しでも双方を繋げることが出来，満足度の高いまちあるき事業になりました。

ACTIVITY ④

④コラボまちあるき

他プロジェクトとコラボすることで，新しい視点を得ることを目的に，「マイナーはプレミアムであるプロジェクト」「京楽ラクプロジェクト」とのコラボまちあるきを実施しました。
【日時・場所】
■2015/10/18（日）「マイナーはプレミアムであるプロジェクト」コラボ企画六原めぐり
■2015/11/01（日）「京楽洛プロジェクト」コラボ企画嵐山UD散策
■2015/12/05（土）「マイナーはプレミアムであるプロジェクト」隠れた名所で紅葉めぐり
【参加者】3 つのイベントで 30 名
【成果】
別プロジェクト視点でまちあるきをすると新しいものが見え，違う視点での活動をすることができました。

ACTIVITY ⑤

⑤真筝さんトークショー

「おもてなし」は思いやりであり，思いやりを持つと感謝が生まれます。そして感謝の言葉として，京都には「おおきに」という言葉があり，「おおきに」を広めることこそが「おもてなし」に繋がると考え，京都観光審議会の委員の元芸妓でジャズシンガーの真筝さんをお迎えしてトークショーを行い，「おおきに」の意味や良さを語って頂くことを目的に開催しました。

【日時】2015/11/21（土）【場所】中京区　ちおん舎【参加者】16 名

【成果】

真筝さんが普段心がけている「おおきに」の精神が参加者に伝わり，また真筝さんがお話された「おもてなし」の実践を参加者も行っていることがわかり，参加者自身がこれまでされてきた「おもてなし」の再確認が行え，改めて自信と共感を集める事ができたと考えます。

ACTIVITY ⑥

⑥FMラジオ出演

実施しているイベントやプロジェクトの活動内容を広く知ってもらうことを目的にラジオ出演しました。

【日時・場所】2015/11/11（水）三条ラジオカフェ，2016/1/7　α-station

【成果】

プロジェクトとしての活動内容を，FMラジオを通じて広く知ってもらうことができ，イベントが早々に定員オーバーになるなど反響も多々あり，良い機会となりました。

REFLECTION

第一段階として「まちあるき」などの京都観光に興味を持っている京都市民をコア層として獲得することができたと考えます。次の展開として，日常生活の中で，「観光客に対して一歩踏み出したおもてなしを実施したいが，きっかけがない京都市民の方々」「観光客と積極的に触れ合いたいけど，触れ合う機会がない方」などに対して，事業を展開していきたいと考えています。具体的には上記の京都市民と一緒に観光客に対して，おもてなしのアプローチも実施する予定です。

イベント参加者がイベント実施中や実施後に「困っている人を助けた」「観光に来た人とコミュニケーション取った」等少しでも京都に貢献できたと思えるような報告を受けることができました。また，少しではあるがコア層を獲得したことで，「真筝さんトークショー」「大人の修学旅行」「Ototabi」で，観光客と京都市民のふれあいの場を作ることは達成できたが，当初掲げていた目標人数である 100 人にはまだ工夫と努力が必要だと感じました。

任期修了後も，活動を継続し，京都に上洛された人に，京都市民が「おおきに」「おこしやす」などの京ことばでおもてなしの言葉をかけ，「京都市民って，あったかい。」という心と心を繋ぐような感情が生まれるような人と人とのミュニケーションに繋げていけるような観光地を目指したいです。

TOTAL PROJECT COST（総事業費）	153,683 円
100 人委員会からの応援金総額	142,668 円

03 PROJECT おじゃまします［映像・検証］プロジェクト

MISSION

日本一の「おもてなし」の心をもつ京都を目指して，市民目線で，京都の面白さ・魅力を映像で発信し，その映像を通じて京都の未来を語り合い，より良い京都の姿を描くきっかけ作りを行います。

MEMBER

松本　英男，山本　佳史，西川　大輔，北庄司　知美，絹傘　近，木村　晋也

ACTIVITY ①

①おじゃまします！実践型映像力勉強会

ドリームプランプレゼンテーションのプレゼンターを講師として招き，映像で伝える技術やノウハウを学ぶ会を実施しました。

【日時】2015/3/26(木)　18:00～20:00 【場所】京都府トラック協会会議室 【参加者】14 名

【成果】

プロジェクトが主張している「映像と検証」の必要性を参加者に伝えたところ，参加者 14 名中，12 名の方から御回答を頂け，その 80%（9 名）の方が，今回のイベントに参加して良かったと回答されました。それに加え，プロジェクトの活動をより理解することが出来たという言葉をいただきました。

ACTIVITY ②

②四条通りアンケート調査

活動中，京都市民からの声（ニーズ）として，『四条通りの渋滞』に関する問題が浮上してきました。そこで，『安心安全な市民生活』を掲げる京都市が実際に『四条通り近辺（御池通り～五条通り間と堀川通り～川端通り間の中の地域）で火災や事故，テロや地震などの自然災害でどのような被害を被るかを消防機関と救急機関と一緒に調査・検証し，その映像を京都市行政に渡した上で改善策を我々市民が行政と一緒になって考えることが，人命に関わる大きな課題と考えたため，『映像をベースに四条通りの渋滞解消方法調査発掘プロジェクト』として実施しました。

【日時】2015/12/19(土)・26(土)，2016/1/9(土)・16(土)・26(火)
【場所】四条通（藤井大丸前～高倉通間）京都ホテルオークラ
【参加者】1,209 名（アンケート回答者と 2 回の発表会参加者）
【成果】

「同工事が原因で渋滞が増加」と回答した歩行者は，556 名(約 48%)，「市バスが原因で渋滞が増加」と回答した歩行者は，455 名(約 39%)，「同工事後，渋滞が解消された。」と回答した歩行者は，143 名(約 12%)(総回答者数 1,154 名)でした。

京都市政が主張していた「歩行者」や「観光客」は，『四条通りの歩道拡幅工事』を支持している旨の発表とは，正反対の事実であり，そして，数値が示す通り，歩行者の約 9 割が「四条通が渋滞している理由は，同工事と市バスが元凶である。」と回答がありました。また，歩行者の約7割が，「同工事前の四条通りに戻すか，新たな改善が必要」と回答。「同工事後に歩道拡張されたので四条通りを利用している」と回答した歩行者は，半数にも満たない約 4 割でした。

これらの事実が物語る通り『四条通りの工事』は残念ながら失敗であると言わざるを得ないと考えます。

REFLECTION

私たちの成果を門川市長や市長を応援していた沢山の国政議員や府・市会議員の方々にも『歩行者』の想いを活動の結果(数値)から伝えることができました。

平成 28 年 1 月 26 日に行われた『京都府トラック協会南支部』での会合において，直接市長に，四条通で行った調査結果を伝え，その時に同席していた『京都市建設局道路建設部道路建設課課長』と後日，当プロジェクト活動を通じて，今後『四条通り』の改善が具体化される運びと相成りました

しかし消防機関や救急機関と一緒に火災や事故，テロや地震などの自然災害が起きた場合，実際に四条通り近辺で私たち市民が実際にどのような被害を被ることになるかの調査・検証が具体的にできませんでした。

TOTAL PROJECT COST	611,682 円
100 人委員会からの応援金総額	250,000 円

04 PROJECT キモノスタート

MISSION

現代人が失いつつある「手間暇をかける時間」を大切にしたいという想いを背景に，日常生活の中で着物を着る事を提案するプロジェクト。日本の昔ながらの所作や季節感を感じながら，豊かな心や時間を育むことができる機会創出に取り組みました。

MEMBER

西森　寛，やまさき　さちよ，山本　俊輔，森田　真秀子

ACTIVITY ①

①キモノを語るん会

京町家という京都の昔ながらの民家で実施し，着物の熟練者と初心者をつなぎ，交流のなかで自分に合ったキモノを教え合うことで，日常着としてのキモノの再発見となる機会につながるのではないかということから企画実施しました。
秋の紅葉シーズンに向けて，着物熟練者や着物に関する職人との関係構築を狙いとしました。
【日時】2015/9/20（日）14:00～16:00　【場所】錦の家　【参加者】17 名
【成果】
メンバーの知人宅でもあり，京町家という京都の昔ながらの民家で実施しました。住む人を知れるだけでなく，着物に関心がある人が気楽に集まりやすい場になると感じ，「住み開き」の一環としての着物のイベントは非常におもしろいと感じました。

ACTIVITY ②

②キモノをみるん会

キモノに興味があるけど，キモノがないという若年者を始めたとした人たちに向けて，毎月２５日に開催される天神さんで古着購入ツアーを開催しようということから実施しました。
メンバーがガイドとなり，どんな着物がよいかわからない，サイズもよくわからないという人に，語り合いながら自分のキモノに出会っていこうという内容です。
【日時】2015/10/25（日）　7:00～8:00　【場所】北野天満宮　【参加者】5 名
【成果】
早朝ということもあり，集まりは悪かったですが，好天に恵まれ，各々の着物に出会うことができました。古着を入口にするというのは，お手頃価格で手に入れることもでき，好評でした。

ACTIVITY ③

②お寺でキモノグリーン

日常着であるキモノが自分の心と身体を見つめなおす機会にもつながるということから，お寺と苔玉つくりを通してよりそれを体感してもらう場として，「プランターから始める京都菜縁生活」と協働で企画実施しました。
【日時】2015/12/5（土）　10:00～12:00　【場所】明覚寺　【参加者】21 名
【成果】
冬場ということもあり，重ね着や普段着を活かしながらの楽しみ方や着方を着物女子による話題提供を取り入れることで，より身近な服として試着することをねらいとしました。若年者からの参加が多く集まり，コラボ企画としてそれぞれの得意分野を活かした内容とすることができました。

REFLECTION

着物に普段なじみがない人にとって，日常着としての着物の固定的なイメージをなくすことができたと考えています。例えば，帯ではなく，ベルト，襦袢でなく，タートルネックである等。
「着物に興味があるのだけど…」で止まらないようにするには，ひと押しする人がいる，もしくは少しでも気軽に着ることのできる機会があることが重要だと感じました。一緒に楽しみながらつくっていくスタンスが若い人にとってはとても共感部分が多いと感じています。
また，和装関係の団体や関係者も，非常に快く応援してくれるというのは，この 100 人委員会だからこその強みだと思っています。
メンバーにとっても，着物を面倒で手間がかかり，敷居の高い衣服ととらえるのではなく，自分の生活の一部であり，そのゆっくりとした時間や感覚を楽しむことができ，人と人を豊かにつないでいくコミュニケーションツールになるという気づきにもつながりました。

TOTAL PROJECT COST（総事業費）	121,937 円
100 人委員会からの応援金総額	98,890 円

05 PROJECT 国際チーム

MISSION

京都市民と外国人がお互いの距離を近くし，理解を深め，笑顔があふれるまちを目指したプロジェクトです。地域や商店街と連携しながら，気軽に交流できる場づくりと，相互理解を促す取組みを行ってきました。

MEMBER

笠間　絹子，首藤　麻予，水谷　修子，小田　浩文，笹川　一，菅原　淳，服部　充宏，三保　俊幸，伊澤　汐里，松野　実菜，森川　哲巳，丸山　遼

ACTIVITY ①

①留学生との交流会

今後のプロジェクトの方向性を決定する為に，ターゲットとなる留学生が感じている京都での生活の不満や思った事などを意見交換する場を設けました。
【日時】2015/3/29(日) 【場所】東山荘 【参加者】12 名(うち留学生3名)
【成果】
国際チームの方向性を周知でき，参加者と問題意識を共有できました，2014 年 12 月の構想発表会以降プロジェクトのターゲットを留学生へと絞ったことの理解を得たうえで，留学生からの意見を参加者全員で直接聞いたことで，各々が「自分に何ができるか」を考えるきっかけをつかみ，留学生の持つ悩みをともに解決していこうとする当事者意識の芽生えが見られました。
また二点目の成果として，留学生を含む参加者が，国際チームに対し提携先としての親近感を抱いたことが挙げられます。スタッフを含めて 20 人強というイベント規模や意見交換という形式も相まって，チームメンバーの人となりや我々の熱意を肌で感じてもらうことができました。

ACTIVITY ②

②留学生×パレット河原町商店街，連携事業

京都には多くの外国人がいるのに，京都市民との距離が離れている。これは 3 つの壁が課題であると考えます。

(1) 言葉の壁…言葉が通じなくてコミュニケーションが取れない。
(2) 心の壁…なんとなく距離を感じ，困っている旅行客を見て話しかけたいけど，少し躊躇してしまう。
(3) 文化・制度の壁…生活習慣や国の制度が違うため，お互いに戸惑いを感じる。

これらの壁を取り払う為，パレット河原町商店街組合から「組合員に対する語学研修」を依頼されたのを期に私達の意図していた留学生と京都市民が理解し合う好機と捉え実施しました。
【日時】2015/10/19(月) 【場所】京都信用金庫河原町支店
【参加者】パレット河原町商店街組合員 21 名，留学生 5 名(中国 2 名　韓国 2 名　カナダ 1 名)

英語，中国語，韓国語，それぞれを母国語とする留学生が講師となり，商店街の店主に，それぞれの言語での接客のポイントをロールプレイング形式で研修を実施。
1　アリスさん(国際センター)考案のロールプレイングで外国語に対応した接客の方法を習得
2　留学生が用意した「便利な 5 つのフレーズ」を習得
3　組合員から対応で困った事など質問に答える
4　留学生が商店街を下見した感想を発表

【成果】
語学研修だけではなく，場面設定をとおして国際理解に繋がりました。
組合員も当初，単なる語学の勉強会と捉えていたが，留学生から商店街を下見した感想などを聞き，ロールプレイングを実施することにより異文化を理解する事の重要性を知るに至りました。

＜参加組合員の感想＞
○ 「とても充実していて，楽しく実のある時間が過ごせた。講師やスタッフの方々は皆フレンドリーで，ロールプレイスタイルの試みも良かった。」(商店街コーディネーター)
○ 「店舗で国際理解のイベントをしたいので企画を手伝って欲しい。」(近畿日本ツーリスト)

REFLECTION	
	○プロジェクトを通して得た変化・気付き ＜留学生に対して＞ 1　来日してから感じていた日本社会に対する感想を訴える機会になりました。 2　母国語を活用し商店街店主を指導する事が出来ました。 3　商店街組合という普段接することのできない世界を体験出来ました。 ＜商店街の店主に対して＞ 1　来店する外国人客に対する接客のヒントを得る事が出来ました。 2　異文化を理解することが必要と理解できました。 言葉の壁はあるものの，それ以前に迎えようとする気持ちが大切と理解しました。 **○達成出来た事** 1　京都市民が外国人を理解し合う機会を創造したいと考えていました。今回留学生，河原町商店街組合員の間を「接客のロールプレイング」を通して異文化理解が浸透しました。 2　烏丸経済新聞の取材もありこの結果を外部に発信する事が出来ました。このことは次の「依頼」に対し一つのメニューとして提示出来ました。 **○出来なかった事** 商店街の性格上，実施が平日となり参加出来る国際チームメンバーが限られました。 **○活動中に感じた事** 1　対象の河原町商店街と相談を重ね，商店街の希望している内容を把握し，私達が得意とする以外の部分を補ってもらう必要を感じました。そこで国際理解の専門家である国際センターのアリスさんの指導を求め，準備や当日の進行も質の高いものになりました。 2　河原町商店街に限らず外国人と接する団体や組織は，その接し方等で問題意識を持っています。そこに私たちが異文化理解の機会を作るニーズは多くあると考えます。

TOTAL PROJECT COST（総事業費）	132,737 円
100 人委員会からの応援金総額	105,737 円

06 PROJECT 出張人つなぎカフェ

MISSION

シニアと若者が世代を超えて刺激しあい，寄り添い合う社会を目指すプロジェクトです。人と人とが気軽に交流できるユニークな場を創ることで，それぞれの世代が持つ知識や経験を分かち合い，循環させる取組を行っています。

MEMBER

谷川　史弥，浅岡　真菜巳，石倉　紘子，兼子　榛奈，酒井　美奈子，高瀬　貴宏，中村　アヤ，大野　丈，木村　晋也，西　誠，家城　和子，井越　望実，越後　諒一，大片　秀和

ACTIVITY ①

①ぶぶ漬け王決定戦

若者とシニアの交流の場をつくることを目的に，「食」という老若双方にとって共通の話題を設定し，交流会を実施しました。

【日時】2015/3/28(土)10:00～13:00 【場所】西利祇園店 【参加者】18 名

【成果】

「食」という老若双方にとって共通の話題を設定し，若者と高齢者を混合したチームを組むことで，買い出しや調理の際にはチーム内で活発な意見の交換が行われました。また，試食交流の時間には，チームを越えた参加者同士の異世代交流が実現できました。アンケートでも，異世代交流を楽しめたとする声が多く聞かれましたが，今回の異世代交流を通じて芽生えたつながりを一過性のものにせず，継続的なものにしていくための工夫をする必要があると感じました。

ACTIVITY ②

②ぶっちゃけ王決定戦

前回のイベント（ぶぶ漬け王決定戦）では食の話ばかりで，腹を割った話ができなかったという声が多くありました。そしてチームを組んで競争することで自然と交流が深まるという前回得たヒントを今回も活かしたいという思いから「ぶっちゃけ話」を「競い合う」という目的で実施しました。

【日時】2015/10/24(土) 10:00～12:00【場所】御池創生館【参加者】若者 3 名，シニア 9 名

【成果】

若者 1 名，シニア 2 名，スタッフ 1 名の 4 名でチームを組み，運営側が用意した「ぶっちゃけ話」を上回るような話をチームの中で暴露しあいました。その中で，最も異世代交流が盛んだった，最も衝撃的だった暴露話をした等の観点からチャンピオンを決定しました。

イベントは盛会でしたが，若者の集客が思う様にいかないなど，「異世代交流」の名目で集客することの難しさを痛感しました。

ACTIVITY ③

③へべれけ王決定戦

ぶっちゃけ王決定戦では，「異世代交流」を前面に出して広報しましたが，結果，思うように集客が進まなかったので，その反省を踏まえ，老若ともに楽しめ，かつ腹を割って話がしやすい環境を作れる「(日本) 酒」を切り口に企画を練りました。そこに過去 2 回のイベントで手ごたえのあった「チームを組んで競い合う」という要素を加えて開催しました。

【日時】2016/2/27(土)13:30～16:00 【場所】嵐山　昇龍苑 【参加者】学生 12 名，一般 8 名

【成果】

4 人 1 組でチームを組み，昇龍苑のテナントで食材を買い出し，日本酒に合うおつまみを作って，試食交流しました。また，交流の際にはテーマを「夢」と設定して会話をしてもらうことで，話題が見つからず交流が進まないという事態を回避するように工夫しました。加えて各チームのおつまみを，西利社員様を含む審査員が審査し，彩りや味付けなどの観点から最優秀作品を決定しました。夢という明るいテーマで話ができてよかったという声をたくさんいただけました。一方，当日までスタッフ間の進行の流れが共有できていなかった点が課題として残りました。

REFLECTION	20 代の若者にシニア層の方々と話をすることの魅力に気付いてもらえました。 イベントの際に取ったアンケートでも, ・ 「異世代ごとの価値観・手法の相違や, そこから生まれる科学反応が面白い」 ・ 「以前まで異世代との交流より, 同年代と遊んでいた方が楽しいと思っていたが, 視野を広げることができ, 違った価値観に触れることができて, もっと色んな人の話を聞きたいと思うようになった」 ・ 「考えや文化など違うことを認識するとともに, その違いが知れて興味深かった」 ・ 「自分の経験を後世に伝えることが大切なのだと認識できた」 といった声が寄せられました。 また, シニア層の方々には, 自身がしてきた経験は若者にとってすごく興味深いものであるということに気付いてもらえたと感じます。 イベントの実施を通して異世代交流を誘発する道具(ぶっちゃけすごろくや夢サイコロ)を作ることができました。 また, それらの道具を使用して約 30 名の人に異世代交流の参加する機会を提供することができました。 一方で, 目標としていた 50 人の集客には及ばず, プロモーションの面には課題を残した。 活動を通じて, 異世代交流の参加者の満足度は総じて高かったですが, その魅力を効果的に伝えることがすごく難しく感じました。同時に参加者から「もっと交流してみたい」という声が老若双方から多くあり, どちらの世代にも潜在的なニーズは眠っているのだと実感し, この活動の可能性を大いに感じました。

TOTAL PROJECT COST（総事業費）	106,760 円
100 人委員会からの応援金総額	92,160 円